

有害化学物質から子どもたちを守ろう！

日本で流通している化学物質は工業生産されているものだけで数万種類、その用途や種類は多岐に渡り、私たちの生活の隅々に浸透しています。暮らしを便利にして役立つ一方、人の健康や生態系に害を及ぼす性質も持つっており、増え続ける化学物質の安全性の検証は後回しになってきているのが現状です。化学物質過敏症や、身を守るための防衛手段として起きるアレルギーなどの発症増加は、有害物質の影響を受けやすい子どもたちを守る対策の必要性を私たちに突きつけています。

— 平塚市の課題 —

◆ シックスクール マニキュアの活用

学校施設に起因する化学物質による健康被害を防ぐため、平塚市では2005年、県内で2番目にシックスクールマニキュアを策定しました。教職員の意識啓発、化学物質によるアレルギーの予防措置、児童・生徒等への配慮をその目的とし、施設整備に使用する建材、机・椅子・教材の備品の選定や、床ワックスやトイレの芳香剤などの成分や使用方法、児童・生徒への対応などを定めています。2回の改定を経て現在に至っていますが、現在マニキュアルの存在そのものが教職員に十分周知されていない実態があります。まずは教職員への周知を図り、活用していく

「香害」学習会報告

「子どもの免疫を脅かす 有害化学物質イソシアネート」

2月2日、神奈川ネット香害・化学物質対策プロジェクト主催の学習会が開催されました。講師はアレルギー疾患や化学物質過敏症など、環境中の化学物質による疾患を専門に子どもたちと向き合ってきた小児科医の角田和彦さんです。

柔軟仕上げ剤、消臭スプレーなどには香りを長持ちさせるため、毒性の強いイソシアネートが揮発するウレタン製のマイクロカプセルが使われています。柔

ことが大切です。

◆ 香害の周知策を

シヤンプー、柔軟仕上げ剤などの香りに含まれる化学物質が、頭痛や吐き気、かゆみの誘発や鼻炎の悪化等を引き起こし、化学物質過敏症を誘発しています。家庭に持ち帰り洗濯される給食のかっぱう着等もその原因となり得ることから、市教育委員会は香害の周知を図るため、昨年9月各学校あてにポスター掲示と保護者への周知を求める文書を発信しました。しかし学校により周知方法が違いポスター掲示も進んでいない状況です。教育現場のみならず公共施設等においてもポスターを掲示するなど、更なる周知策を求めています。



たマイクロカプセルは洗っても取れないとのこと。イソシアネートは現在規制もなく表示もされていません。世界では無香料方針を掲げる自治体もあり、香料成分を開示する企業が続々現れているとのことですが、日本ではその動きはありません。国に規制を求めると共に、香害の周知と自粛策を自治体に求めていくことが必要です。

海岸樹林への薬剤散布

— 困っている市民がいます —

神奈川県が海岸松の害虫対策として5〜6月に行っている薬剤散布により、体調を崩している市民がいます。



神奈川県HPより

住宅地等での農薬使用については省令でその方法や住民への周知方法に関する事項が定められていますが、十分な周知策が取られていない現状があります。

健康被害を防ぐため、散布の是非と共に、防災無線や回覧板による周知など、事前の更なる配慮が必要です。県、市に改善策を求めています。